



今月の内容：

着任雑感（南会津農林事務所長）／今月のトピックス「田島町藤生区が「豊かなむらづくり」で受賞」／特集！「水田農業改革の着実な達成に向けて」／ひとくち普及情報「私たち森林づくり一年生！」／今月のコラム「会津田島駅」／人事異動のお知らせ／農林事務所からのお知らせ「『緑の募金』で地域の緑づくりにご協力下さい!!」／研修会・講習会等お知らせ

平成16年4月10日発行 福島県南会津農林事務所

着任雑感

(私が日々感じていること)

南会津農林事務所長 渡邊 孝一

戦後ヨーロッパは軒並み食料自給率を高め、日本は反対に低下した。貿易自由化のもとでは工業が優位な日本では経済的必然性があった。

1980年代、食生活は一日2,500KCalで安定し、P(たんぱく質)、F(脂質)、C(炭水化物)のバランスがとれて、日本はスウェーデンを抜いて世界の長寿国となり、世界で日本型食生活が提唱された。

しかしこの日本型食生活は皮肉にも輸入食糧への依存を高めることで実現した。1980年以降は、脂質の割合が上昇し、スリムな体型を誇った日本人も肥満・糖尿・高血圧に悩むこととなった。

かくして、日本型食生活は安定したものではなく、和洋折衷型の実現にすぎず、飲食は謳歌しているよ

うだが摂り過ぎは脂質だけで、カルシウム、鉄分の摂取減と意外に貧困である。

そこで国では2000年食生活指針を公表したが、欧米諸国からは20年も遅れている。

日本型食生活の維持と食料自給率は関連している。自給率＝国内生産量÷国内消費量であるが、生産も消費も減退している。消費の減退が生産にはね返り、農業はいよいよ縮小再生産になる。

現在若い層の食料消費支出の減り方は激しく、コンビニ型食生活へシフトしており、当然脂質の割合が高くなっている。若い層から日本型食生活離れが起こっている。

食生活の基本は10代前半で決まり、学校給食の影響は大である。食歴形成期の子供たちの食が将来の食のあり方を握る。

学校給食に地場の米や野菜を供給する取り組みも始まっているが、このような息の長い取り組みこそ日本型食生活を守り食料消費を上向きにし、生産量の増大につながり、自給率向上を支えるもっとも基礎的な取り組みであると思う。

今月のトピックス

田島町藤生区が「豊かなむらづくり」で受賞

藤生わらび園をご存知でしょうか。田島町の藤生区にある標高約1,000m^{はさみやま}の鉄山を活用した観光わらび園で、地元の藤生区の人々の手により開園し、管理されています。シーズン中は栃木県や茨城県などの関東地方を中心に大勢の客が訪れます。

藤生区のむらづくりは、このわらび園作りを中心としながら、転作の推進などの農業生産の振興や、世代を超えた集落内の交流など集落の活性化に取り組んできました。

このたび、これらの取り組みが評価され、県と福島民友新聞社による「豊かなむらづくり顕彰事業」で、優秀集団としてその取り組みが表彰されました。

去る3月19日、福島市の杉妻会館において行われた表彰式では、区を代表して大竹雄三区長と湯田芳夫さん、星光吉さん、大竹甚一さんが出席し、福島県知



事賞と福島民友新聞社長賞として賞状と記念の盾、トロフィーが贈られました。

その後藤生区の皆さんは県庁農林水産部と福島民友新聞社を訪れ受賞報告をし、これからのむらづくりの取り組みへの決意を新たにしていました。

(地域農林企画室)

平成16年度より、生産調整の方法や転作を実施した場合のメリット対策が大きく変わるなど、新たな米政策がスタートします。

県では、この米政策改革の実施を契機として、水田農業の抜本的な改革に取り組み、本県農業の再構築を図るため、昨年6月に知事を本部長とする「福島県水田農業改革推進本部」を設置し、昨年12月には関係機関・団体が取り組む施策を体系的に明らかにした「水田農業改革アクションプログラム」を策定しました。

■水田農業改革の目指すべき姿 (目標：平成19年度)

- (1) 安心・安全、環境にやさしい「売れる米づくり」が水稻作付の約7割
- (2) 園芸産地の全県の拡大と大豆の100%充足
- (3) 米飯給食の週4回実施
- (4) 認定農業者数の5割アップ

■南会津地方の年度別ガイドライン

	現状 (H14)	H16	H17	H18	H19	県目標値(H19)
環境にやさしい米づくり※	0 ha	200 ha	550 ha	950 ha	1,450 ha	51,900 ha
水稻直播栽培	20 ha	80 ha	85 ha	90 ha	100 ha	7,600 ha
米飯給食の週実施回数	(地方のガイドラインは設けられていない)					4回
米の消費水準	(地方のガイドラインは設けられていない)					115(全国を100)
野菜・花きの作付面積	565 ha	650 ha	682 ha	714 ha	746 ha	19,000 ha
大豆の作付面積	141 ha	170 ha	230 ha	290 ha	347 ha	9,000 ha
飼料作物の作付面積	40 ha	56 ha	64 ha	72 ha	80 ha	18,000 ha
認定農業者数	159	183	189	195	201	7,500
大規模稲作経営体数	0	1	5	10	25	700
担い手への農用地利用集積面積	1,019 ha	1,373 ha	1,549 ha	1,726 ha	1,903 ha	83,500 ha

※ 環境にやさしい米づくりは、有機栽培、特別栽培、エコファーマーによる栽培の計です。

このアクションプログラムでは「県内食料自給率100%(加減ベース)の達成」をスローガンに掲げ、平成19年度までに収益性の高い農業経営の確立と米の消費拡大、活力ある生産構造の確立を目指すこととしております。この目指す方向は、各町村で策定している「地域水田農業ビジョン」と基本的には同じものであり、農業者の皆様にはそれぞれの「地域水田農業ビジョン」に基づく取組みを積極的に展開し、地域の実情に応じた水田農業の再構築を目指しましょう。

ひとくち
普及情報

わたしたち森林づくり1年生!

(森林林業部)

子年生まれ、正真正銘の森林づくり1年生の皆さんをご紹介します。

「昨年3月、県立田島高等学校を卒業と同時に下郷町森林組合に就職しました。この1年間は、「緑の雇用」研修生として県内53名の仲間とともに福島県林業研究センターなどで、森林・林業・木材産業に係る基礎研修・専門研修を34日間受講し、林業技術の習得に努めました。また研修のない日には毎日先輩職員に連れられて、下刈りや間伐作業などで実践



を積んでまいりました。山仕事は、雨の日があったり、暑い日、寒い日があったりして大変苦労しました。丸太担ぎがつかった・・・」とこの1年間を振り返っていただきました。

このような時励ましあい、力になったのが同期の仲間だったそうです。いずれも下郷町出身の荒井夏貴君(栄富)、星良太君(落合)、長沼大樹君(大内)、渡部浩仁君(高陸)の4人です。1年前とは顔つきも、体つきも比べ物にならないくらいたくましくなっていました。これからは森林づくりの技術者として活躍されることでしょう。

今後の4人の活躍を期待します。



私は、今、会津若松市より午前7時29分会津田島駅着のマウントエクスプレスで通勤している。駅に降りると、無糖の缶コーヒーを片手に一服するのが習慣になっており、そこで駅を利用する方々の行動を、10分程度何とはなく眺めている。

毎日会う顔、始めて会う顔、いろいろな人々がせわしげに通り過ぎる。

春には、入学したての初々しい高校生を始め転勤族の張り切った顔々。初夏からは、尾瀬等へのハイカーや登山客。秋には、会津高原の自然を求める観

光客。冬にはスキーヤーと春夏秋冬いろいろな人々が通り過ぎる。時には、組み立て式の自転車を駅前で組み立てて、颯爽と出かける若者のグループもある。

また、出張などでお昼頃の電車を利用することがあるが、昼間の駅の顔は朝とは異なり、団体観光客で溢れている。駅の中の物産館で両手いっぱい買い物をしたり、駅の近辺で食事をしたり皆それぞれ楽しんでいる。

私は、時々頼まれてカメラマンになるときがあるが、併せて質問責めにも合う。

曰く、「手打ちそばが食べられるところはないの?」「しんごろうなどの郷土料理は?」等々。丁度昼時なので、食事の質問が多い。

現在、駅近辺では、手打ちそばや郷土料理の店が数軒あるとのこと。今後は、手打ちそばから郷土料理まで、「まるごと南会津の店」もあってもよいのではなかろうかと思っている。

(地域農林企画室長 齋藤 康博)

人事異動のお知らせ

南会津農林事務所では4月の人事異動により25名が転出(うち退職者1名)し、26名が新たに配属となりました。

転入者

所属	氏名	旧所属	ひとこと P R
所長	渡邊 孝一	経営支援領域	はじめての南会津です。無知の知を武器に飛び回ろう。
企画部 (地域農林企画室)	近内 保二	土木総務領域	初めての南会津勤務。雄大な自然と沢山の旨い物。楽しみです。
	高畑 孝雄	喜多方商業高校	南会津勤務は初めてです。よろしくお願いします。
	渡部 龍太	財務領域	南会津の四季を楽しみにしたいと思います。よろしくお願いします。
	遠藤 敦	新規採用	新採用ですが早く一人前になれるように頑張ろうと思います。
	中村 英則	会津南部ほ場整備事務所	南会津の地で新鮮な気持ちで頑張ります。よろしくお願いします。
農業振興部	影山 正志	農業短期大学校	南会津は初めての勤務です。よろしくお願いします。
	稲本太一郎	会津農林事務所	農業振興部は初めてですが、地元のために頑張りますのでよろしく。
	蓬田 直樹	会津農林事務所	南会津は初めて勤務します。よろしくお願いします。
	長尾 智則	県中地方振興局	新採から初の管外異動で南会津に来ました。よろしくお願いします。
農業普及部 (南郷普及所)	松本 登	生産流通領域	緑深き南会津の大地に、農業の繁栄を目指し、微力ながら我進まん。
	穴沢 崇	会津坂下農業普及所	楽しく、楽しい! 楽々米作りを目指して。よろしくお願いします。
	瀧田 克典	新規採用	すべてが初めてですが、頑張ります。よろしくお願いします。
農村整備部	高津 顕一	会津坂下農業普及所	2箇所目の職場です。新しい環境でがんばります。
	菅野 正男	県北農林事務所	初めての南会津勤務です。健康に気をつけ頑張りたいと思います。
	後藤 裕一	生産流通領域	農業土木の現場は10年ぶりになります。よろしくお願いします。
	磯目 剛	会津農林事務所	南会津は初めての勤務ですが美しい自然環境の中頑張りたいです。
	長岡 学	富岡用水改良事務所	南会津の農業・農村の発展と趣味の充実を目標に頑張ります。

所属	氏名	旧所属	ひとことPR
森林林業部	川村 勝美	会津南部ほ場整備事務所	南会津は2回目の勤務。豊かな自然と豊かな心に触れ合いたい。
	齋藤 直樹	相双農林事務所	はじめての南会津。季節の移り変わりを実感しながら頑張ります。
	山河 周	富岡林業指導所	初めての南会津です。よろしくお願いします。
	森田 健弥	県南農林事務所	よろしくです。
	小沼 研二	森林林業領域	希望どおりの南会津。大自然を楽しみながら頑張ります。
	安部由紀子	会津農林事務所	梅の花がちらほら咲いて、暖かい春です。楽しく過ごしたいです。
	齋藤 渡	相双農林事務所	一生懸命ガンバリますのでよろしくお願いします。
	藤田 学	新規採用	早く仕事に慣れる様に頑張りたいです。よろしくお願いします。

退職者・転出者 (カッコ内は転出先等です)	
所長	熊田貞夫 (退職)
企画部	鈴木清昭 (県民環境総務領域)、佐々木幸弘 (会津地方振興局)、渡邊和之 (北塩原村派遣)、坪井崇 (会津大学)、円谷正人 (生産流通領域)
農業振興部	小山正雄 (いわき農林事務所)、高橋和平 (農業短期大学校)、長谷川守人 (会津農林事務所)、市下貴之 (会津地方振興局)
農業普及部	飯島義也 (伊達農業普及所)、鈴木忠弘 (いわき農林事務所)、野上紀江 (農業試験場会津支場)、江川孝二 (農業試験場会津支場)
農村整備部	坂下幸男 (県中農林事務所)、佐川積成 (県南農林事務所)、平石広伸 (農林総務領域)、小貫恵 (会津農林事務所)
森林林業部	船木秀晴 (県南農林事務所)、内藤大介 (森林林業領域)、東村真太郎 (富岡林業指導所)、笠原航 (環境共生領域)、佐川大三 (会津農林事務所)、益子努 (いわき農林事務所)、坂本敦史 (会津農林事務所)

農林事務所からお知らせ

『緑の募金』で地域の緑づくりにご協力下さい!!

(森林林業部)

皆様からの温かいご協力により集まった「緑の募金」は、全県規模の緑化推進に使われているほかに、地域に密着した緑化活動にも役立っています。

平成15年度は南会津郡全体で200万円を越える

「緑の募金」が集まりました。

今年も4月1日から5月31日まで、緑の募金運動が行われています。

緑の募金への理解と温かいご協力をお願いします。



～研修会・講習会等お知らせ～



内容	月 日	場 所
----	-----	-----

- | | | |
|---|-----------------|---------------|
| ①アグリスクール実践コース (開講式)
(※県内の新規参加者もしくは新規就農3年以内の方に限ります) | 5月10日(月)～14日(金) | 農業短期大学校 (矢吹町) |
| ②農産加工 (醤油の加工) | 5月19日(水)～21日(金) | 農業短期大学校 (矢吹町) |
| ③農産加工 (県産小麦の菓子パン加工) | 5月20日(木) | 農業短期大学校 (矢吹町) |
| ④トラクタの安全操作 | 5月26日(水) | 農業短期大学校 (矢吹町) |

※お申込み・お問合せ先：南会津農林事務所 地域農林企画室 0241-62-5866 / 農業普及部 0241-62-5262



あて先 〒967-0004

福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1

南会津農林事務所 地域農林企画室

TEL 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256

E-mail minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp

ホームページ http://www.aff.pref.fukushima.jp/minamiaizu/

みなさんのご意見ご感想をお寄せください。

タイトル横の写真

桜と六地藏
(田島町田島)

撮影：円谷

R100

PRINTED WITH SOY INK™

この広報紙は古紙配合率100%再生紙とSOY(大豆油)インキを使用しています。